

実践『ペルソナ』通信 (No.20)  
「実践女子大生の映画鑑賞」に関する調査結果  
～女子大生で映画館に行って映画を観る人は8割～

実践女子大学人間社会学部 「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「女子大生の映画鑑賞」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は54サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

今回の調査を通して、女子大生で映画館に行って映画を観る人は8割、頻度は2～3ヶ月に1回であることがわかった。また、6割以上の方が友達と観に行くという結果になり、恋人と一人で観に行く人が次いで多いということがわかり、女子大生は友達と映画を観に行く人が多い事がわかった。

映画館でよく見るジャンルは何かと尋ねたところ、恋愛が23%と最も多い結果となり、この事から、女子大生は友達と恋愛映画をみる人が多いということがわかった。

チケットの料金は妥当と思わない人が多く、妥当なチケット料金は500～1500円未満と考えている結果となり、現在の映画のチケット価格が自身の考える価格よりも高い事に満足していない人が多いことがわかった。

また、レディースデーや割引クーポンによる割引を利用する人は9割以上と多い結果となり少しでも安く映画を鑑賞しようとする人が多い事がわかった。

映画を鑑賞しない理由は、家で鑑賞したいから、映画館で鑑賞したい映画がないからなど回答にあまり偏りが無く、さまざまであることがわかった。

今回の回答者が普段自由に使えるお金は3万円～5万円で約3割、次いで約7万円が約2割という回答が得られた。この金額と妥当だと考える映画料金には関係があるかを分析した結果、普段自由に使えるお金の額が多いほど妥当だと考える映画料金は高くなるという関係はみられてなかった。

**(1) 映画館に行って映画を見る人は8割**

映画館に行って映画を見るかと尋ねたところ、17%が「行って映画を見る」という回答であった。

**(2) 2～3ヶ月に1回映画を見に行く人が5割**

映画館にどのぐらいの頻度で見に行くかと尋ねたところ、2～3ヶ月に1回と回答した人が49%と全体の約半分を占める結果となった。

**(3) 映画館に友達と見に行く回答した人は6割**

映画館に誰と見に行くかを尋ねたところ、友達と回答した人が62%と最も多く、全体の半分以上を上回った。また、一人で見に行く人は18%、恋人と見に行く人は13%と、一人で見に行く回答した人の方が次いで多いという結果となった。

**(4) よく見る映画のジャンルは23%と恋愛が最も多い**

映画館でよく見るジャンルは何かと尋ねたところ、恋愛が23%と最も多く、次いでドラマが17%という結果になった。しかし全体的に各項目の数値は近く、あまりジャンルを問わないで様々なジャンルを見ているということがみてとれた。

**(5) チケットの料金は妥当だと思わない人が75%**

映画館のチケット料金の妥当性を尋ねたところ、妥当だと思うと答えた人が25%で、妥当だと思わないと答えた人が75%という結果となった。妥当だと思わないと答えた人は、妥当なチケット料金を500～1500円未満と考えていることがみてとれた。

**(6) 割引サービスを利用している人は9割以上**

レディースデーやファーストデー等の割引サービスの利用頻度を尋ねたところ、たまに利用する人が71%と最も多く、次いで毎回利用する人が20%、まったく利用しない人が9%という結果となった。

**(7) 映画館で映画を鑑賞しない理由は様々**

映画館に行って映画を見ないと答えた人のその理由は、家で鑑賞したいからと答えた人が33%と最も多く、次いで映画館で鑑賞したい映画がないからと答えた人が22%という結果となった。それ以外に少数派意見がいくつか存在していた。

**(8) 普段自由に使えるお金の額の高さと妥当だと考える映画料金は無関係**

女子大生に普段自由に使えるお金の額が高いほど、妥当だと考える映画料金も高めに回答しているのではないかと考え、これを検証するための分析を行った。その結果、普段自由に使えるお金の額と妥当だと考える映画料金の方に相関はみられなかった。

## 調査結果について

### <調査概要>

1. 調査対象：実践女子大学渋谷キャンパス在学学生
2. 調査方法：質問紙によるアンケート
3. 調査期間：平成 27 年 11 月 25 日(水)～平成 27 年 12 月 1 日(水)
4. 有効回答者数：54 名
5. 回答者の属性：実践女子大学生 100%

### 【本調査担当チーム】

実践「ペルソナ」研究会

3年 駒崎朝美

3年 石田愛理

3年 森悠紀

3年 圓谷真奈美

(1) 映画館に行って映画を見る人は 83%

映画館に行って映画を見ない人は 17%と全体の約 2 割にも満たない結果となり、映画館に行って映画を見る人が多いということがわかった (図 1)。

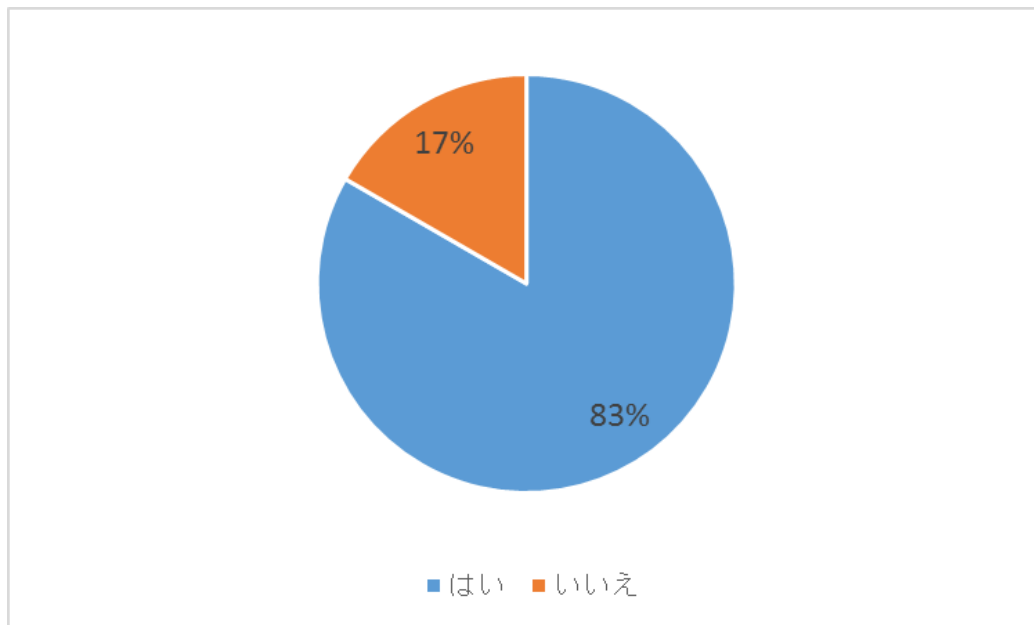


図 1. 映画館に行って映画を見るか (N=54)

(2) 映画館にどのくらいの頻度で見に行くかを調査した所、2~3ヶ月に1回が全体の49%

次いで、半年に1回見に行く人と回答した人が18%、1ヶ月に1回見に行く人と回答した人が13%と、全体の約半分もの人が2~3ヶ月に1回は映画館に行って映画を見るということがわかった (図 2)。

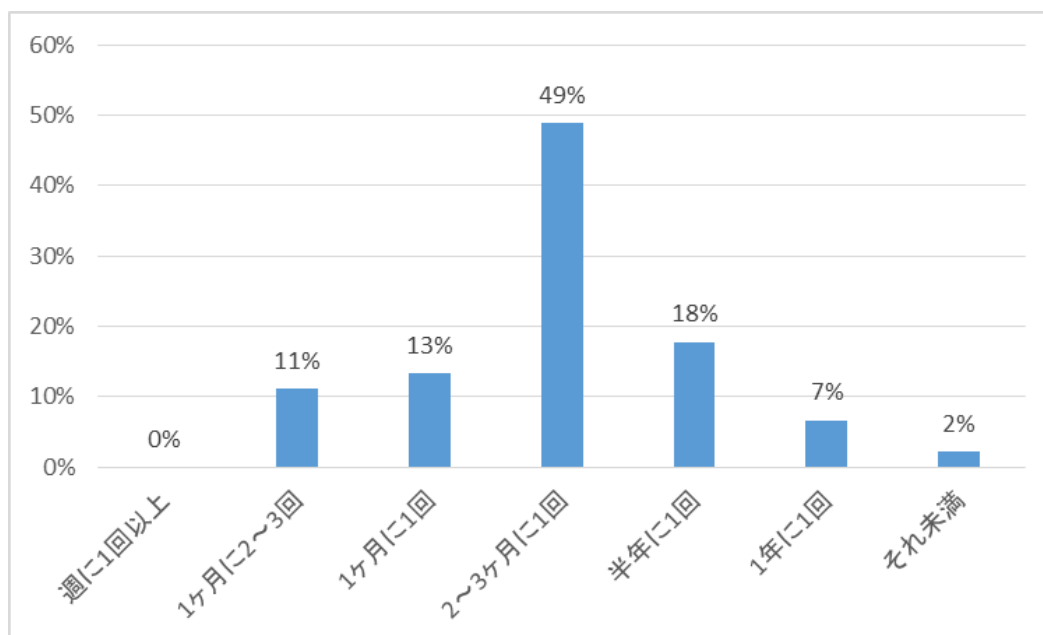


図 2. 映画館にどのくらいの頻度で見に行くか (N=45)

### (3) 映画館に友達と見に行く人と回答した人が62%

映画館に誰と見に行くかを尋ねたところ、友達と見に行く人と回答した人が62%と全体の半分を上回った。次いで、一人で見に行く人と回答した人が18%、恋人と見に行く人と回答した人が13%という結果になり、恋人と見に行く人よりも一人で見に行く人が多かった。また、家族と見に行く人と回答した人が全体の7%と少ないこともわかった(図3)。

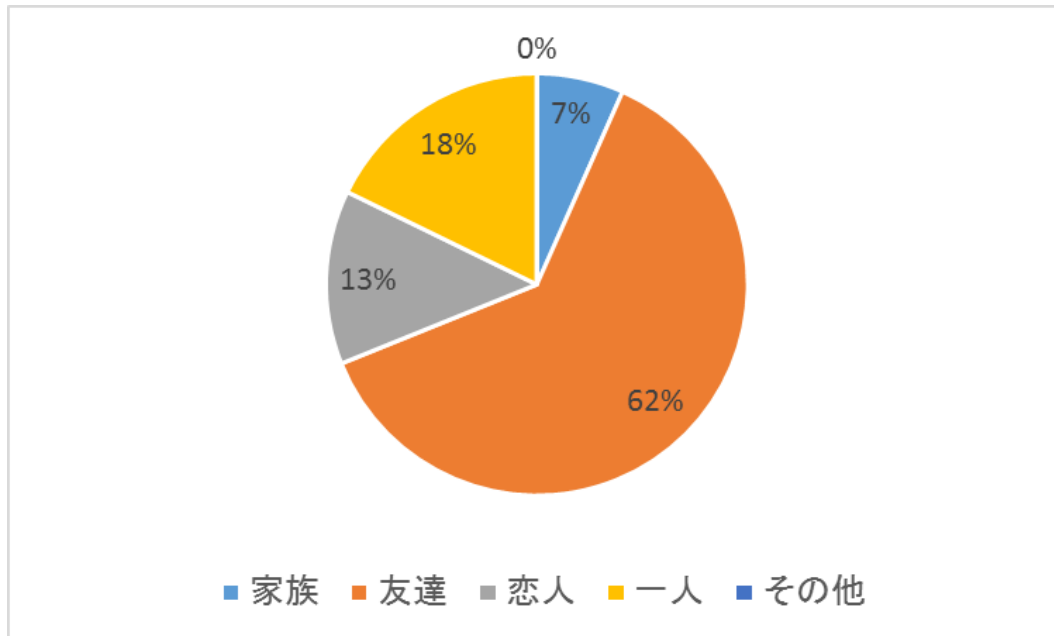


図3. 映画館に誰と見に行くか (N=45)

### (4) よく見る映画のジャンルは恋愛が23%と最も多い

映画館でよく見るジャンルは何かを尋ねたところ、恋愛が23%と最も多かった。次いで、ドラマが17%、SF・ファンタジーが15%、アニメーションが12%、アクションが11%という結果となった。しかし、全体的に見て大差をつけているものはなく、ジャンルを問わず様々な映画を見ているということがわかった(図4)。

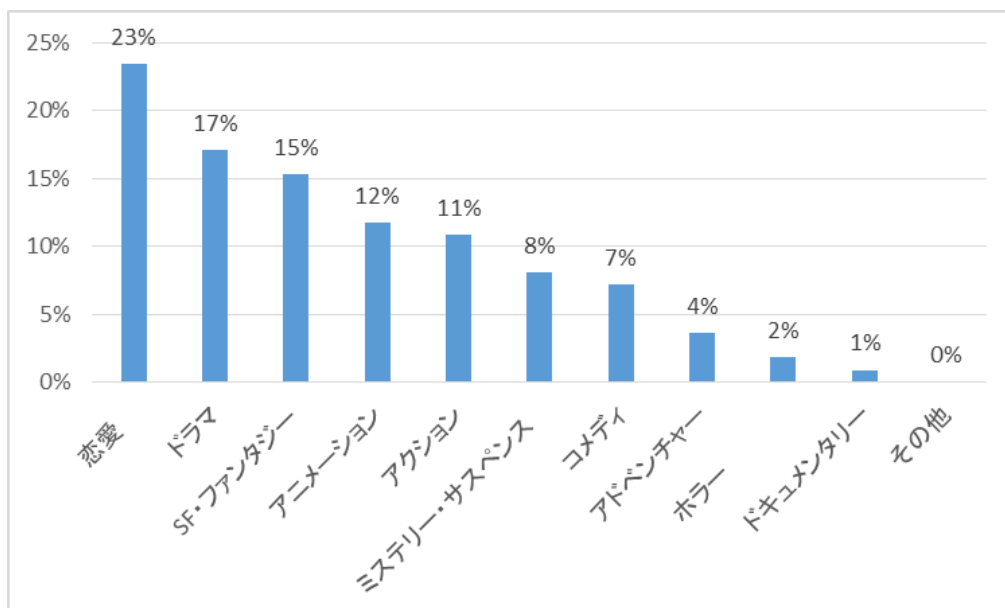


図4. 映画館でよく見るジャンルは何か (N=45)

### (5) チケットの料金は妥当だと思わない人が75%

映画館のチケット料金の妥当性を尋ねたところ、妥当だと思うと答えた人が25%で、妥当だと思わないと答えた人が75%と全体の4分の1を占める結果となった(図5-1)。

5-1.で妥当だと思わないと答えた人に鑑賞料金がいくらなら妥当かと尋ねたところ、500~1000円未満が44%、1000~1500円未満が56%であった。一般的な大学生の鑑賞料金は1500円であることから、現在よりも低価格なチケットの料金設定が望まれていることがわかった(図5-2)。

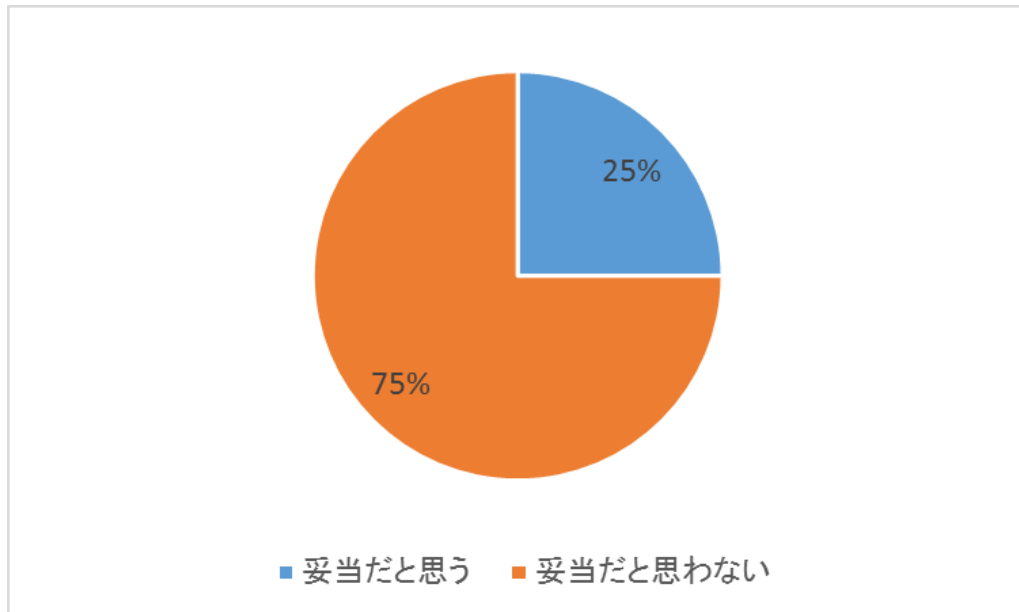


図5-1. 映画館のチケット料金は妥当だと思うか (N=44)

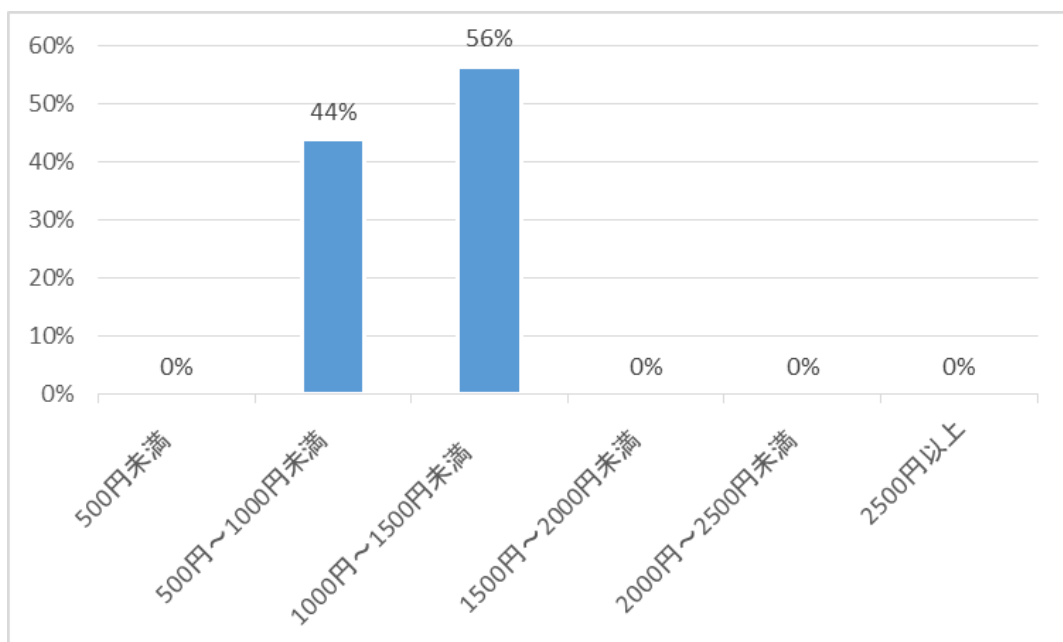


図5-2. 鑑賞料金がいくらなら妥当だと思うか (N=32)

### (6) 割引サービスの利用頻度はたまに利用する人が71%

レディースデーやファーストデー等の割引サービスの利用頻度を尋ねたところ、たまに利用する人が71%と最も多く、次いで毎回利用する人が20%、まったく利用しない人が9%という結果となった。9割以上に人が割引サービスを利用して映画鑑賞していることがわかった(図6)。

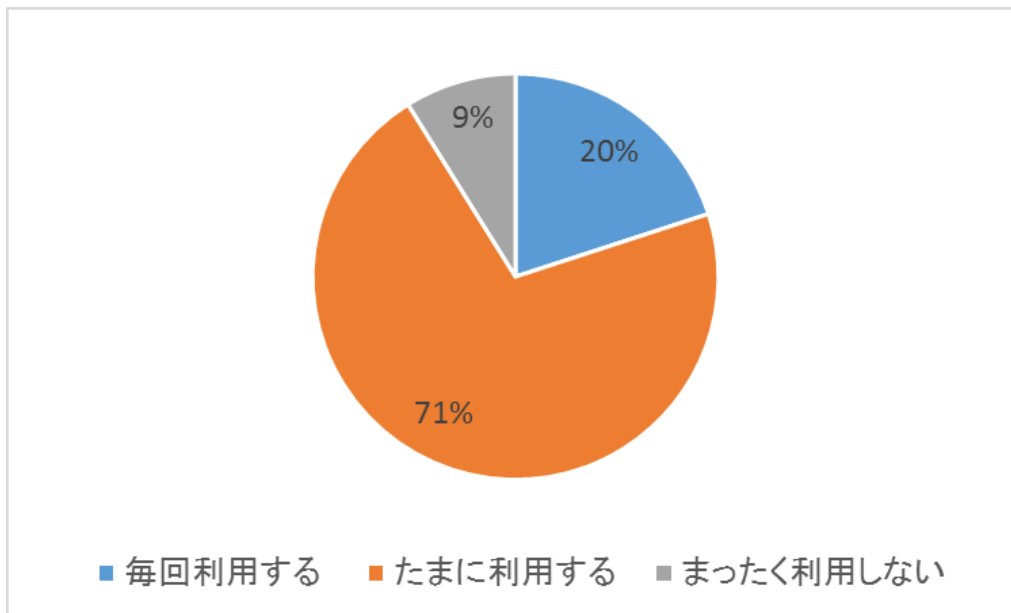


図6. レディースデーやファーストデー等の割引サービスの利用頻度 (N=45)

### (7) 映画館で映画を鑑賞しない理由は様々

(1)で映画館に行って映画を見ないと答えた人に、映画館で映画を鑑賞しない理由を尋ねたところ、家で鑑賞したいからと答えた人が33%と最も多く、次いで映画館で鑑賞したい映画がないからと答えた人が22%という結果となった。それ以外に少数派意見がいくつか存在し、映画館に足を運ぶことへ抵抗がある理由は様々であることがわかった(図7)。

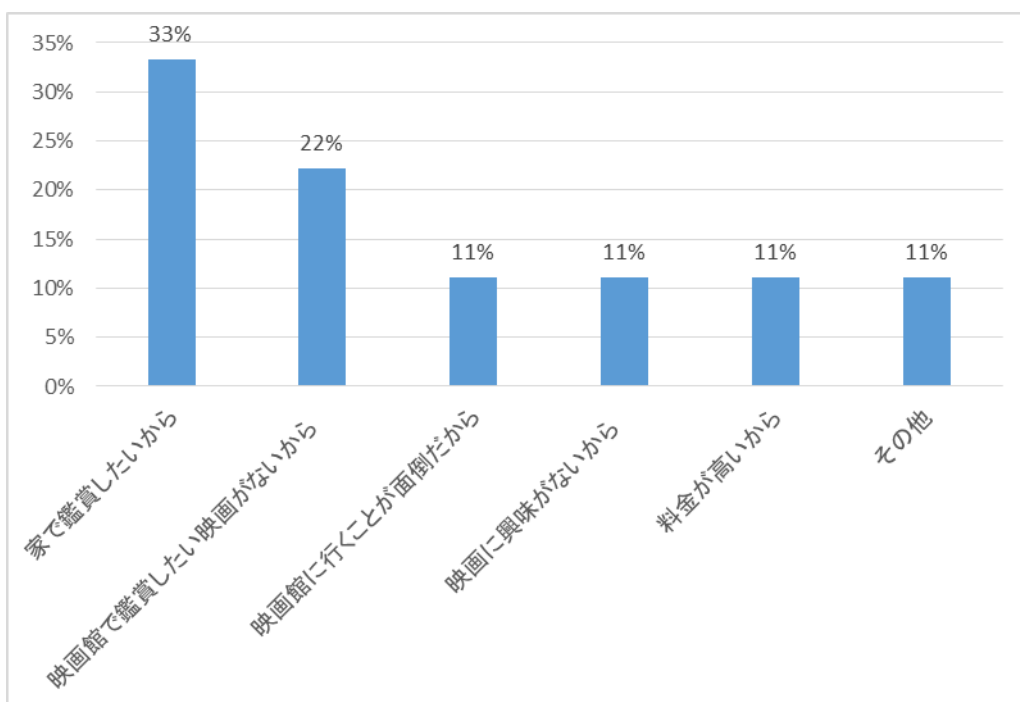


図7. 映画館で映画を鑑賞しない理由 (N=9)

### (8) 普段自由に使えるお金の額の高さと妥当だと考える映画料金は無関係

普段、自由に使えるお金はいくらか尋ねたところ、回答者の27%が3万円～5万円と回答し、一番多く、次いで7万円以上が23%、1万円～3万円未満と、5万円～7万円未満が21%という結果になった(図8)。

これを踏まえて、普段自由に使うことのできるお金の額が多い人ほど、映画のチケット料金に対して妥当だとする金額(前出、図5参照)も高いのではと考え、これらの変数を使った相関分析を行った。その結果、普段自由に利用できるお金の額と映画のチケット料金の間には相関がないことがわかった。(  $r=.053, n.s$  )。

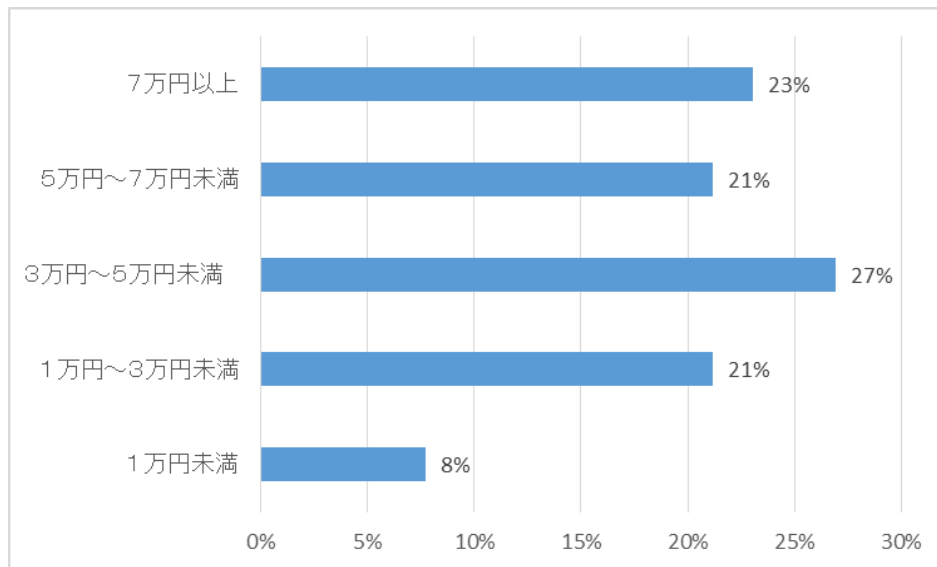


図8. 普段自由に利用することができるお金はいくらか (N=52)